

# PAIN REHABILITATION

「ペインリハビリテーション」

第23回 日本ペインリハビリテーション学会学術大会  
プログラム・抄録集

Vol.8  
No.2 2018

---

---

# 第23回 日本ペインリハビリテーション学会 学術大会

---

---

プログラム・抄録集

テーマ **新たなステージへの挑戦  
—慢性疼痛の予防戦略—**

会期 **2018年 9月22日(土)・23日(日)**

会場 **九州大学医学部 百年講堂**  
〒812-8582 福岡県福岡市東区馬出3丁目1番1号

大会長 **坂本 淳哉**  
長崎大学生命医科学域・保健学系  
長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 理学療法学分野 准教授



# 巻 頭 言

第23回日本ペインリハビリテーション学会学術大会

大会長 **坂本 淳哉** 長崎大学生命医科学域・保健学系  
長崎大学大学院医歯薬学総合研究科  
理学療法学分野 准教授

謹 啓

このたび、平成30年9月22日(土)～23日(日)の2日間、九州大学医学部百年講堂にて第23回日本ペインリハビリテーション学会学術大会を開催させていただきますことを誠に光栄に存じます。本学術大会では、「新たなステージへの挑戦 ―慢性疼痛の予防戦略―」をテーマに掲げ、慢性疼痛の予防戦略をリハビリテーションの視点から探りたいと思います。

大会プログラムは、大会長講演、特別講演、シンポジウム1・2、特別企画、教育講演ならびに一般演題発表などを準備し、多くの情報を提供するとともに慢性疼痛の予防戦略について活発な議論を行っていただける機会を設けました。特別講演では伊達久先生(仙台ペインクリニック)をお招きして「慢性疼痛治療ガイドライン：リハビリテーション治療を中心に」をテーマに、これからの慢性疼痛診療の展望とリハビリテーションに求められる役割についてご講演いただきます。また、シンポジウム1「慢性疼痛の新たな病態と治療戦略 ―身体活動性と慢性疼痛―」では、身体活動性をキーワードに西上智彦先生(甲南女子大学看護リハビリテーション学部)、山田圭先生(久留米大学医学部整形外科学)、片岡英樹先生(長崎記念病院リハビリテーション部)に話題提供いただき、慢性疼痛の病態や介入戦略について整理し、議論したいと思います。シンポジウム2「プライマリ・ケアとしてのペインリハビリテーション」では、矢吹省司先生(福島県立医科大学医学部整形外科学講座・疼痛医学講座)、壬生彰先生(甲南女子大学看護リハビリテーション学部)、平瀬達哉先生(長崎大学大学院医歯薬学総合研究科)に話題提供いただき、慢性疼痛の予防戦略における初期対応としてのプライマリ・ケアにおけるペインリハビリテーションの現状や問題点について討論し、これから取り組むべき課題について整理したいと思います。さらに、特別企画「慢性疼痛の予防対策」では、松平浩先生(東京大学医学部附属病院22世紀医療センター)、浅田史成先生(大阪労災病院治療就労両立支援センター)、牧迫飛雄馬先生(鹿児島大学医学部保健学科)、平川善之先生(福岡リハビリテーション病院リハビリテーション科)に勤労世代や高齢者における慢性疼痛対策の現状と今後の展望についてご講演いただき、議論を進めたいと思います。また、一般演題発表では、口述発表34演題、ポスター発表27演題が採択されました。積極的な議論、情報交換の場にしていただきたいと思います。

最後になりますが、本学術大会の運営にご尽力いただきました運営委員ならびに理事・代議員の先生方、また、多大なるご支援を賜りました後援企業の方々に深謝申し上げます。

謹 白

## 運営委員（敬称略，順不同）

松原 貴子（神戸学院大学）  
沖田 実（長崎大学生命医科学域）  
森岡 周（畿央大学大学院）  
坂本 淳哉（長崎大学生命医科学域）  
城 由起子（名古屋学院大学）  
西上 智彦（甲南女子大学）  
坂野 裕洋（日本福祉大学）  
平川 善之（福岡リハビリテーション病院）  
大住 倫弘（畿央大学）  
片岡 英樹（長崎記念病院）

## 査読委員（敬称略，順不同）

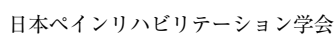
松原 貴子（神戸学院大学）  
沖田 実（長崎大学生命医科学域）  
森岡 周（畿央大学大学院）  
坂本 淳哉（長崎大学生命医科学域）  
城 由起子（名古屋学院大学）  
西上 智彦（甲南女子大学）  
信迫 悟志（畿央大学）  
坂野 裕洋（日本福祉大学）  
平川 善之（福岡リハビリテーション病院）  
肥田 朋子（名古屋学院大学）  
中野 治郎（長崎大学生命医科学域）  
今井 亮太（河内総合病院）  
江草 典政（島根大学医学部附属病院）  
大住 倫弘（畿央大学）  
片岡 英樹（長崎記念病院）  
片山 脩（渡辺病院）  
佐藤 剛介（奈良県総合リハビリテーションセンター）  
下 和弘（愛知医科大学）  
濱上 陽平（新潟医療福祉大学）  
壬生 彰（甲南女子大学）  
井上 雅之（愛知医科大学）  
平瀬 達哉（長崎大学生命医科学域）  
瓜谷 大輔（畿央大学）

## 目 次

|                                        |     |
|----------------------------------------|-----|
| 交通のご案内                                 | 1   |
| 会場マップ                                  | 2   |
| 参加者へのご案内                               | 3   |
| 発表者へのご案内                               | 5   |
| 大会スケジュール                               | 7   |
| 発表演題一覧                                 | 9   |
| プログラム                                  | 10  |
| 大会長講演                                  |     |
| 坂本 淳哉：ペインリハビリテーションの新たなステージ ―慢性疼痛の予防戦略― | 22  |
| 特別講演                                   |     |
| 伊達 久：慢性疼痛治療ガイドライン：リハビリテーション治療を中心に      | 26  |
| シンポジウム1 慢性疼痛の新たな病態と治療戦略 ―身体活動性と慢性疼痛―   |     |
| 西上 智彦：身体不活動と慢性疼痛                       | 30  |
| 山田 圭：フレイルとロコモの観点から見た運動器慢性疼痛            | 32  |
| 片岡 英樹：身体活動性向上に主眼をおいたペインリハビリテーション       | 34  |
| シンポジウム2 プライマリ・ケアとしてのペインリハビリテーション       |     |
| 矢吹 省司：疼痛診療におけるプライマリ・ケア                 | 38  |
| 壬生 彰：地域医療におけるペインリハビリテーション              | 40  |
| 平瀬 達哉：介護予防領域におけるペインリハビリテーション           | 42  |
| 教育講演                                   |     |
| 土井 篤：脊髄における痛みの伝達機構                     | 46  |
| 細井 昌子：慢性疼痛難治例の心身医学的特徴：愛着障害の観点から        | 48  |
| 城 由起子：痛みに対する運動療法                       | 50  |
| 特別企画 慢性疼痛の予防対策                         |     |
| 松平 浩：慢性疼痛の予防対策 ―現状と課題―                 | 54  |
| 浅田 史成：産業保健理学療法領域における慢性疼痛対策             | 56  |
| 牧迫飛雄馬：地域理学療法領域における慢性疼痛対策               | 58  |
| 平川 善之：ペインリハビリテーションにおける慢性疼痛対策           | 60  |
| ランチョンセミナー1                             |     |
| 沖田 実：不活動が身体におよぼす影響とリハビリテーションの最新知見      | 64  |
| ランチョンセミナー2                             |     |
| 境 徹也：慢性疼痛の発症機序と薬物療法 ～エビデンスとガイドライン～     | 68  |
| 一般演題セッション(口述発表)                        | 72  |
| 一般演題セッション(ポスター発表)                      | 90  |
| 共催企業一覧                                 | 104 |
| 定 款                                    | 105 |
| 役員・委員会委員名簿                             | 112 |
| 投稿規程                                   | 114 |
| 編集後記                                   | 116 |

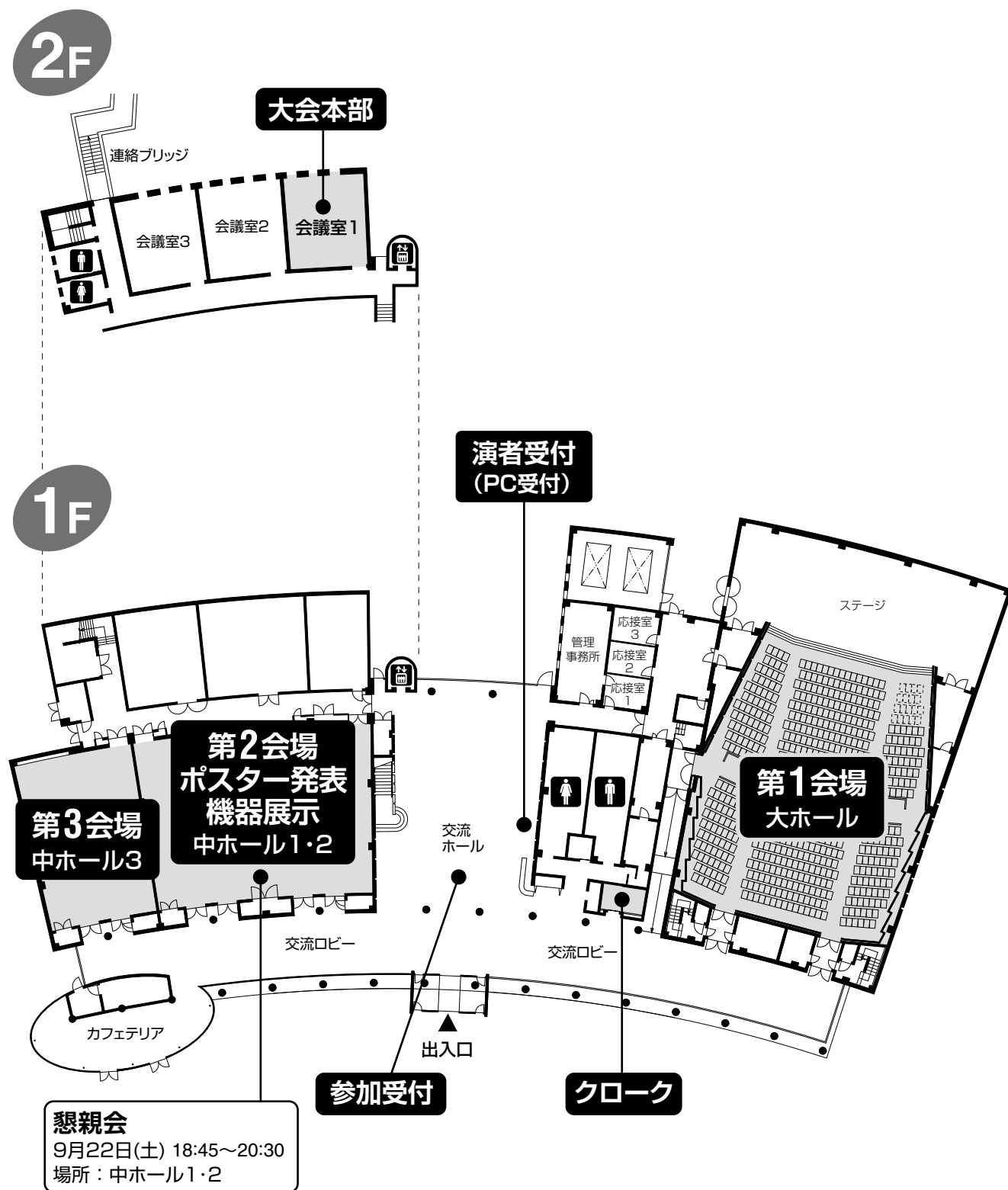


## 〈会場への交通〉





## 会場マップ



## 参加者へのご案内

### ■総合受付

場 所：九州大学医学部 百年講堂 1階 交流ホール

受付時間：9月22日(土) 9:00～17:00

9月23日(日) 8:30～13:30

### ■参加費

一般(会 員)：10,000円

一般(非会員)：12,000円

学 生：1,000円

但：「学生」の場合は、受付時に学生証または在籍証明書の提示をお願いします(大学院生は含まれません)。

### ■抄 録 集

抄録集は当日会場へご持参ください。大会当日は販売も行います。別途購入される方は、総合受付にてお買い求めください(1,500円/冊)。

### ■クローク

場 所：九州大学医学部 百年講堂 1階

受付時間：9月22日(土) 9:00～20:45

9月23日(日) 8:40～16:00

### ■企業展示

会 場：九州大学医学部 百年講堂 中ホール1・2

時 間：9月22日(土) 9:00～18:00

9月23日(日) 8:40～14:00

### ■教育講演受講証の発行について

教育講演受講証の発行をご希望される方は、当日に配布いたします所定の用紙に必要事項をご記入の上、教育講演終了後に出口に設置しております回収ボックスへご提出ください。受講証は当日17時以降に受付にて交付いたします。

### ■その他ご注意

1. 一般演題(口述, ポスター)の発表者の変更が生じた場合は速やかに総合受付までご連絡ください。
2. 講演会場内では携帯電話はマナーモードに設定していただくか、電源をお切りください。
3. 会場内での呼び出しは原則いたしません。
4. 発表スライドまたはポスターの写真・ビデオ撮影は禁止いたします。
5. 質問のある方は、あらかじめマイクの前に立って、座長の指示に従い、所属・氏名を述べたのち簡潔に発言してください。

**■懇親会**

日 時：2018年9月22日(土) 18:45～20:30

会 場：九州大学医学部 百年講堂 中ホール1・2

参 加 費：一般 3,000円／学生 1,500円

申し込み：本学会当日の参加登録受付時に学会参加とともにお申込みください。

**第24回日本ペインリハビリテーション学会学術大会**

会 期：2019年9月21日(土)・22日(日)

会 場：名古屋市内(予定)

大会長：坂野 裕洋(日本福祉大学 健康科学部)

## 発表者へのご案内

### ■発表形式

#### 1. 口述発表

優秀賞候補演題：発表時間7分、質疑応答時間3分です。

一般演題：発表時間5分、質疑応答時間3分です。

#### 2. ポスター発表

ポスター発表は2分間のプレゼンテーションの後、自由討議を行なっていただきます。

なお、プレゼンテーションは両日ともに行っていただきます。

### ■口述発表要領

1. すべての発表においてPCを用いて発表していただきます。PCは学会で準備致します。
2. 口述発表はPCプレゼンテーション(OS: MS Windows, ソフトウェア PowerPoint 2007～2016)のみとします。
3. スライドのサイズは「標準(4:3)」で作成してください。また、スライド枚数に制限はありませんが、時間内に発表が終了するように作成してください。動画、音声の使用は極力お避けください。

### ■ご発表メディアの受付

1. ご発表データはメディア(CD-RあるいはUSBフラッシュメモリー)にて受け付けます。
2. メディアはウイルス定義データを最新のものに更新されたセキュリティソフトにて、ウイルスに感染していないことを必ず確認してお持ちください。
3. 一般演題については、PCの持ち込みは受け付けませんので、発表データ作成後、作成したPC以外で正常にデータが起動するかご確認ください。
4. ファイル名は「演題番号 演者名」としてください。  
(例: O1-1 学会太郎)
5. 大会当日、交流ホール内のPC受付にて発表データを受け付けます。
6. ご発表の1時間前までにPC受付にお越しください。

### ■ポスター発表要領

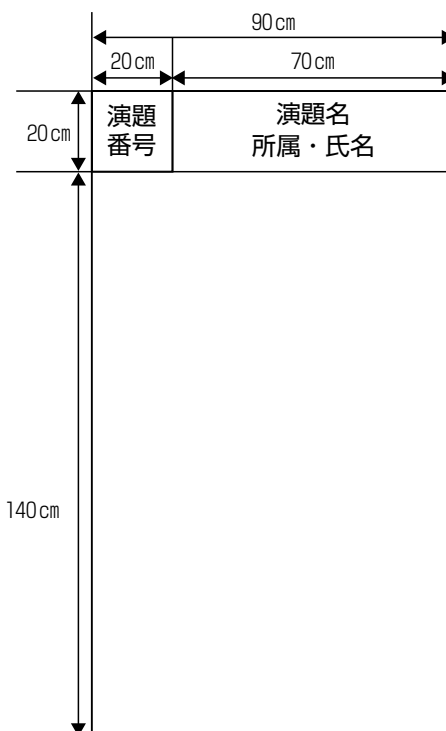
1. 会場：第2会場(中ホール1・2)
2. 時間：ポスター貼付：9月22日(土) 9:00～13:00  
ポスター発表：9月22日(土) 13:45～14:45  
9月23日(日) 11:40～12:40  
ポスター撤去：9月23日(日) 15:30～16:00
3. 発表者は予めポスターボードに備え付けのリボンを着用し、上記の発表時間までにはご自身のポスター前に待機してください。
4. プレゼンテーションは2日とも行います。座長が氏名・所属を紹介してから2分間で研究紹介を行ってください。時間は厳守してください。
5. ポスターの撤去時間内に必ずご自身のポスターを撤去してください。

### ■ポスター作成要領

1. 各ポスターパネルの演題番号は大会側で用意します。
2. ポスターの貼付面のサイズは縦140 cm, 横90 cmの範囲内でまとめてください。
3. タイトル(演題名, 所属, 氏名)は縦20 cm, 横70 cmのサイズ内で作成してください。
4. 質問・意見袋が必要な場合は, 各自で持参, 設置してください。

### ■倫理上の注意

1. ヘルシンキ宣言に沿った研究であることを確認してください。
2. 発表演題に対する倫理的配慮を発表内に含めてください。
3. 特にプライバシーや人体に影響を与える研究に関しては, 対象者に説明と同意を得たことをスライドもしくはポスター内に明記してください。



### ■利益相反の開示について

1. 第23回日本ペインリハビリテーション学会学術大会での発表者は, スライドもしくはポスター内に利益相反の有無および利益相反がある場合には企業名を提示してください。  
 口述発表の場合: 発表時に, スライドの2枚目に, 別に定める(様式1) (<http://japr.hp4u.jp/>) より, 利益相反に関する報告事項を開示してください。  
 ポスター発表の場合: 別に定める(様式1) (<http://japr.hp4u.jp/>) に基づいて, ポスター内に利益相反に関する報告事項を開示してください。
2. なお, 利益相反に関する報告すべき事項がある場合は, 口述発表・ポスター発表に関わらず(様式2) (<http://japr.hp4u.jp/>) を抄録シートと共に総合受付に提出してください。

**1日目**    **2018年9月22日(土)**

| 第1会場<br>大ホール |                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 第2会場<br>中ホール 1・2              | 第3会場<br>中ホール 3                                                                                                                             |
|--------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 9:00         | 9:00～<br>受付開始                                                                                                                                                                                                                                                                                      | ポスター貼付<br>企業展示                |                                                                                                                                            |
|              | 9:25～9:30<br>大会長挨拶                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                               |                                                                                                                                            |
|              | 9:30～10:45<br>教育講演<br>1 脊髄における痛みの伝達機構<br>座長：佐藤 剛介(奈良県総合リハビリテーションセンター リハビリテーション科)<br>講師：土井 篤(熊本保健科学大学 保健科学部)                                                                                                                                                                                        |                               |                                                                                                                                            |
| 10:00        | 2 慢性疼痛難治例の心身医学的特徴：愛着障害の観点から<br>座長：大友 篤(仙台青葉学院短期大学 リハビリテーション学科)<br>講師：細井 昌子(九州大学病院 心療内科)                                                                                                                                                                                                            |                               |                                                                                                                                            |
|              | 3 痛みに対する運動療法<br>座長：中野 治郎(長崎大学生命医科学域・保健学系)<br>講師：城 由起子(名古屋学院大学 リハビリテーション学部)                                                                                                                                                                                                                         |                               |                                                                                                                                            |
|              | 10:50～11:10<br>大会長講演<br>ペインリハビリテーションの新たなステージー慢性疼痛の予防戦略ー<br>座長：坂野 裕洋(日本福祉大学 健康科学部) 講師：坂本 淳哉(長崎大学生命医科学域・保健学系)                                                                                                                                                                                        |                               |                                                                                                                                            |
| 11:00        | 11:10～12:10<br>特別講演<br>慢性疼痛治療ガイドライン：リハビリテーション治療を中心に<br>座長：坂本 淳哉(長崎大学生命医科学域・保健学系)<br>講師：伊達 久(仙台ペインクリニック)                                                                                                                                                                                            |                               |                                                                                                                                            |
| 12:00        | 12:20～13:20<br>ランチョンセミナー 1<br>不活動が身体におよぼす影響とリハビリテーションの最新知見<br>座長：大住 倫弘(畿央大学 ニューロリハビリテーション研究センター)<br>講師：沖田 実(長崎大学生命医科学域・保健学系)<br>共催：アルケア株式会社                                                                                                                                                        |                               |                                                                                                                                            |
| 13:00        | 13:25～13:45<br>総 会                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                               |                                                                                                                                            |
| 14:00        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 13:45～14:45<br>ポスター発表<br>企業展示 |                                                                                                                                            |
| 15:00        | 14:50～16:20<br>シンポジウム 1<br>慢性疼痛の新たな病態と治療戦略ー身体活動性と慢性疼痛ー<br>座長：沖田 実(長崎大学生命医科学域・保健学系)<br>平川 善之(福岡リハビリテーション病院 リハビリテーション科)<br>身体不活動と慢性疼痛<br>シンポジスト：西上 智彦(甲南女子大学 看護リハビリテーション学部)<br>フレイルとロコモの観点から見た運動器慢性疼痛<br>シンポジスト：山田 圭(久留米大学医学部 整形外科)<br>身体活動性向上に主眼をおいたペインリハビリテーション<br>シンポジスト：片岡 英樹(長崎記念病院 リハビリテーション部) | ポスター展示<br>企業展示                |                                                                                                                                            |
| 16:00        | 16:30～17:30<br>一般演題 1<br>基礎・病態・その他<br>O1-1～O1-7<br>座長：坂野 裕洋(日本福祉大学 健康科学部)<br>近藤 康隆(日本赤十字社長崎原爆病院 リハビリテーション科)                                                                                                                                                                                        |                               | 16:30～17:30<br>一般演題 2<br>評価・疫学<br>O2-1～O2-7                                                                                                |
| 17:00        | 17:35～18:35<br>一般演題 3<br>学会優秀賞候補演題<br>O3-1～O3-6<br>座長：田中 創(九州医療スポーツ専門学校 理学療法学科)<br>濱上 陽平(新潟医療福祉大学 医療技術学部)                                                                                                                                                                                          |                               | <div>           座長：<br/>会田 記章<br/>(順天堂大学医学部附属<br/>順天堂医院 リハビリ<br/>テーション室)<br/>許山 勝弘<br/>(福岡リハビリテーショ<br/>ン病院 リハビリテー<br/>ション科)         </div> |
| 18:00        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                               |                                                                                                                                            |
| 19:00        | 18:45～<br>懇 親 会    会場：第2会場(中ホール1・2)                                                                                                                                                                                                                                                                |                               |                                                                                                                                            |

**2日目**    **2018年9月23日**

| 第1会場<br>大ホール |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 第2会場<br>中ホール 1・2              | 第3会場<br>中ホール 3                                                                        |
|--------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|
| 9:00         | 9:00~10:30<br><b>特別企画</b><br><b>慢性疼痛の予防対策</b><br>座長：下 和弘（愛知医科大学 運動療育センター）<br>片山 脩（渡辺病院 リハビリテーション科）<br><b>慢性疼痛の予防対策－現状と課題－</b><br>シンポジスト：松平 浩（東京大学医学部附属病院 22世紀医療センター）<br><b>産業保健理学療法領域における慢性疼痛対策</b><br>シンポジスト：浅田 史成（大阪労災病院 治療就労両立支援センター）<br><b>地域理学療法領域における慢性疼痛対策</b><br>シンポジスト：牧迫 飛雄馬（鹿児島大学 医学部保健学科）<br><b>ペインリハビリテーションにおける慢性疼痛対策</b><br>シンポジスト：平川 善之（福岡リハビリテーション病院 リハビリテーション科） | ポスター展示<br>企業展示                |                                                                                       |
| 10:00        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                               |                                                                                       |
| 11:00        | 10:35~11:35<br><b>一般演題 4</b><br><b>治療・1</b><br>O4-1~O4-7<br>座長：大鶴 直史（新潟医療福祉大学 医療技術学部）<br>金原 一宏（聖隷クリストファー大学 リハビリテーション学部）                                                                                                                                                                                                                                                          |                               | 10:35~11:35<br><b>一般演題 5</b><br><b>治療・2</b><br>O5-1~O5-7                              |
| 12:00        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 11:40~12:40<br>ポスター発表<br>企業展示 | 座長：<br>平賀 勇貴<br>（福岡リハビリテーション<br>病院 リハビリテー<br>ション科）<br>後藤 響<br>（長崎記念病院 リハビ<br>リテーション部） |
| 13:00        | 12:50~13:50<br><b>ランチョンセミナー 2</b><br><b>慢性疼痛の発症機序と薬物療法 ～エビデンスとガイドライン～</b><br>座長：伊達 久（仙台ペインクリニック）<br>講師：境 徹也（佐世保共済病院 ペインクリニック麻酔科）<br>共催：塩野義製薬株式会社                                                                                                                                                                                                                                 | ポスター展示<br>企業展示                |                                                                                       |
| 14:00        | 14:00~15:30<br><b>シンポジウム 2</b><br><b>プライマリ・ケアとしてのペインリハビリテーション</b><br>座長：井上 雅之（愛知医科大学 運動療育センター）<br>平瀬 達哉（長崎大学生命医科学域・保健学系）<br><b>疼痛診療におけるプライマリ・ケア</b><br>シンポジスト：矢吹 省司（福島県立医科大学医学部 整形外科科学講座・疼痛医学講座）<br><b>地域医療におけるペインリハビリテーション</b><br>シンポジスト：王生 彰（甲南女子大学 看護リハビリテーション学部）<br><b>介護予防領域におけるペインリハビリテーション</b><br>シンポジスト：平瀬 達哉（長崎大学生命医科学域・保健学系）                                           |                               |                                                                                       |
| 15:00        | 15:30~<br><b>次期大会長挨拶ならびに表彰式・閉会の辞</b><br>坂野 裕洋（日本福祉大学 健康科学部、第24回学術大会長）                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 15:30~<br>ポスター撤去              |                                                                                       |
| 16:00        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                               |                                                                                       |
| 17:00        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                               |                                                                                       |
| 18:00        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                               |                                                                                       |
| 19:00        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                               |                                                                                       |

## 発表演題一覧

### ■ 学会優秀賞について

第23回日本ペインリハビリテーション学会学術大会におきましては、学会優秀賞として、最優秀賞1名、優秀賞2名を選出いたします。

〈学会優秀賞候補演題〉

#### **O3-1** 佐々木 遼

寒冷療法の適用温度の違いがラット膝関節炎の急性期における腫脹や痛みにおよぼす影響

#### **O3-2** 大賀 智史

骨格筋におけるマクロファージの動態ならびに末梢神経密度の変化は不動性筋痛の発生メカニズムに関与するのか？

#### **O3-3** 下 和弘

難治性慢性痛患者を対象とした  
短期集中入院型ペインマネジメントプログラム

#### **O3-4** 近藤 康隆

術後早期からの視覚および聴覚 feedback を用いた  
大腿四頭筋の等尺性筋収縮運動が人工膝関節全置換術後の  
慢性疼痛の発生や身体・運動機能におよぼす影響

#### **O3-5** 出口 直樹

破局化思考を呈した変形性膝関節症術後患者に対する  
痛み神経科学教育の効果：単盲検クラスター偽ランダム化比較試験

#### **O3-6** 平賀 勇貴

人工膝関節置換術後患者に対する『活動日記』を併用した  
作業療法実践の検証



## プログラム

会場：九州大学医学部 百年講堂

### 大会長講演

9月22日(土) 10:50～11:10 第1会場(大ホール)

#### ペインリハビリテーションの新たなステージ ー慢性疼痛の予防戦略ー

座長：坂野 裕洋 日本福祉大学 健康科学部

講師：坂本 淳哉 長崎大学生命医科学域・保健学系 長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科

### 特別講演

9月22日(土) 11:10～12:10 第1会場(大ホール)

#### 慢性疼痛治療ガイドライン：リハビリテーション治療を中心に

座長：坂本 淳哉 長崎大学生命医科学域・保健学系 長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科

講師：伊達 久 仙台ペインクリニック

### シンポジウム1

9月22日(土) 14:50～16:20 第1会場(大ホール)

座長：沖田 実(長崎大学生命医科学域・保健学系)

平川 善之(福岡リハビリテーション病院 リハビリテーション科)

#### 〔慢性疼痛の新たな病態と治療戦略 ー身体活動性と慢性疼痛ー〕

##### S1-1 身体不活動と慢性疼痛

西上 智彦 甲南女子大学 看護リハビリテーション学部

##### S1-2 フレイルとロコモの観点から見た運動器慢性疼痛

山田 圭 久留米大学医学部 整形外科

##### S1-3 身体活動性向上に主眼をおいたペインリハビリテーション

片岡 英樹 長崎記念病院 リハビリテーション部

**シンポジウム2**

9月23日(日) 14:00～15:30 第1会場(大ホール)

座長：井上 雅之(愛知医科大学 運動療育センター)  
平瀬 達哉(長崎大学生命医科学域・保健学系)

## 〔プライマリ・ケアとしてのペインリハビリテーション〕

**S2-1 疼痛診療におけるプライマリ・ケア**

矢吹 省司 福島県立医科大学医学部 整形外科科学講座・疼痛医学講座

**S2-2 地域医療におけるペインリハビリテーション**

壬生 彰 甲南女子大学 看護リハビリテーション学部

**S2-3 介護予防領域におけるペインリハビリテーション**

平瀬 達哉 長崎大学生命医科学域・保健学系

**教育講演**

9月22日(土) 9:30～10:45 第1会場(大ホール)

**EL-1 脊髄における痛みの伝達機構**

座長：佐藤 剛介 奈良県総合リハビリテーションセンター リハビリテーション科

講師：土井 篤 熊本保健科学大学 保健科学部

**EL-2 慢性疼痛難治例の心身医学的特徴：愛着障害の観点から**

座長：大友 篤 仙台青葉学院短期大学 リハビリテーション学科

講師：細井 昌子 九州大学病院 心療内科

**EL-3 痛みに対する運動療法**

座長：中野 治郎 長崎大学生命医科学域・保健学系

講師：城 由起子 名古屋学院大学 リハビリテーション学部

## 特別企画

9月23日(日) 9:00～10:30 第1会場(大ホール)

座長：下 和弘(愛知医科大学 運動療育センター)

片山 脩(渡辺病院 リハビリテーション科)

## 〔慢性疼痛の予防対策〕

## SP-1 慢性疼痛の予防対策 ―現状と課題―

松平 浩 東京大学医学部附属病院 22世紀医療センター

## SP-2 産業保健理学療法領域における慢性疼痛対策

浅田 史成 大阪労災病院 治療就労両立支援センター

## SP-3 地域理学療法領域における慢性疼痛対策

牧迫 飛雄馬 鹿児島大学 医学部保健学科

## SP-4 ペインリハビリテーションにおける慢性疼痛対策

平川 善之 福岡リハビリテーション病院 リハビリテーション科

## ランチョンセミナー1

9月22日(土) 12:20～13:20 第1会場(大ホール)

共催：アルケア株式会社

## 不活動が身体におよぼす影響とリハビリテーションの最新知見

座長：大住 倫弘 畿央大学 ニューロリハビリテーション研究センター

講師：沖田 実 長崎大学大学院生命医科学域・保健学系

## ランチョンセミナー2

9月23日(日) 12:50～13:50 第1会場(大ホール)

共催：塩野義製薬株式会社

## 慢性疼痛の発症機序と薬物療法 ～エビデンスとガイドライン～

座長：伊達 久 仙台ペインクリニック

講師：境 徹也 佐世保共済病院 ペインクリニック麻酔科

## 一般演題セッション(口述発表) プログラム

### 一般演題1 [基礎・病態・その他]

9月22日(土) 16:30~17:30 第1会場(大ホール)

座長: 坂野 裕洋(日本福祉大学 健康科学部)

近藤 康隆(日本赤十字社長崎原爆病院 リハビリテーション科)

#### O1-1 非不動部である前肢の自発運動はラット後肢の不動性疼痛の発生を抑制する

石川 空美子 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 保健学専攻 理学療法学分野

#### O1-2 ラット変形性股関節症モデルにおける関連痛の発生機序に関する検討

竹下 いづみ 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 運動障害リハビリテーション学研究室

#### O1-3 Arthrogenic muscle inhibition に対する運動イメージを用いた介入の有効性

小田 翔太 高知大学医学部附属病院 リハビリテーション部

#### O1-4 運動習慣の有無および能動性が運動後の疼痛閾値・気分変動に及ぼす影響

中藺 良太 医療法人藤井会 藤井会リハビリテーション病院

#### O1-5 中枢性感作を有する疼痛患者における疼痛関連因子の特徴

重藤 隼人 畿央大学大学院 健康科学研究科 神経リハビリテーション学研究室

#### O1-6 術後急性痛に影響を与える術前の予測因子の検討

渡辺 祐樹 福島県立医科大学附属病院 リハビリテーションセンター

#### O1-7 痛みの数と手段的日常生活動作および心理的因子との関連性

齊藤 貴文 麻生リハビリテーション大学校 理学療法学科

### 一般演題2 [評価・疫学]

9月22日(土) 16:30~17:30 第3会場(中ホール3)

座長: 会田 記章(順天堂大学医学部附属順天堂医院 リハビリテーション室)

許山 勝弘(福岡リハビリテーション病院 リハビリテーション科)

#### O2-1 痛みの破局的思考が運動器疼痛疾患の短期的アウトカムに与える影響 —PCS4のスクリーニングツールとしての効果検討—

濱田 和明 医療法人和光 和光整形外科クリニック

#### O2-2 RA 患者の訴える痛み

—生活機能障害と疼痛強度, 精神心理的問題の関係性, PDAS による比較検討—

内山 裕貴 道後温泉病院 リウマチセンター リハビリテーション科

#### O2-3 人工膝関節置換術後患者における痛みの破局的思考と性格の関連 ～日本語版 Ten Item Personality Inventory (TIPI-J)を用いた検討～

許山 勝弘 福岡リハビリテーション病院

- O2-4** 若年膝関節痛における神経感作に関する横断調査  
—ストレス・生活習慣要因との関係性に着目して—  
宮田 梨沙 日本福祉大学 健康科学部
- O2-5** 慢性閉塞性肺疾患患者における慢性疼痛の実態調査  
田中 貴子 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科
- O2-6** 労働世代における腰痛調査  
—心理社会的要因と身体症状の関連性の検討—  
桑原 健太 鈴鹿回生病院 リハビリテーション課
- O2-7** 全人工膝関節術後患者における中枢神経感作の要因分析：横断研究  
内藤 卓也 福岡リハビリテーション病院

**一般演題3** [学会優秀賞候補演題]

9月22日(土) 17:35～18:35 第1会場(大ホール)

座長：田中 創(九州医療スポーツ専門学校 理学療法学科)

濱上 陽平(新潟医療福祉大学 医療技術学部)

- O3-1** 寒冷療法の適用温度の違いがラット膝関節炎の急性期における腫脹や痛みにおよぼす影響  
佐々木 遼 社会福祉法人十善会 十善会病院 リハビリテーション科
- O3-2** 骨格筋におけるマクロファージの動態ならびに末梢神経密度の変化は不動性筋痛の発生メカニズムに関与するのか？  
大賀 智史 日本赤十字社 長崎原爆病院 リハビリテーション科
- O3-3** 難治性慢性痛患者を対象とした短期集中入院型ペインマネジメントプログラム  
下 和弘 愛知医科大学 運動療育センター
- O3-4** 術後早期からの視覚および聴覚 feedback を用いた大腿四頭筋の等尺性筋収縮運動が人工膝関節全置換術後の慢性疼痛の発生や身体・運動機能におよぼす影響  
近藤 康隆 日本赤十字社長崎原爆病院
- O3-5** 破局化思考を呈した変形性膝関節症術後患者に対する痛み神経科学教育の効果：単盲検クラスター偽ランダム化比較試験  
出口 直樹 福岡リハビリテーション病院
- O3-6** 人工膝関節置換術後患者に対する『活動日記』を併用した作業療法実践の検証  
平賀 勇貴 福岡リハビリテーション病院

## 一般演題4 [治療・1]

9月23日(日) 10:35~11:35 第1会場(大ホール)

座長: 大鶴 直史(新潟医療福祉大学 医療技術学部)

金原 一宏(聖隷クリストファー大学 リハビリテーション学部)

**O4-1** ビデオを用いた患者教育にて ARCR 後の夜間痛及び破局的思考・不安は改善する

問田 純一 医療法人博仁会 福岡リハビリテーション病院

**O4-2** 回復期脳卒中患者に対するニューロフィードバックシステムを用いた運動感覚イメージ介入の有効性

鳥山 結加 医療法人瑞心会 渡辺病院 リハビリテーション科

**O4-3** 経頭蓋直流電気刺激と有酸素運動の併用介入が圧痛閾値および安静時脳波活動に及ぼす影響

佐藤 剛介 畿央大学ニューロリハビリテーション研究センター

**O4-4** 極軽微な触刺激は痛覚感受性や神経感作を抑制する

金子 花観 日本福祉大学 健康科学部

**O4-5** 長時間運動中に生じる鎮痛と気分変化の推移に関する検討

前田 創 日本福祉大学 健康科学部

**O4-6** 快適強度での運動が気分や EIH 効果に与える影響についての検討

丹羽 祐斗 日本福祉大学 健康科学部

**O4-7** 脊髄近傍に対する TENS の鎮痛効果と有効範囲に関する検討

新浪 瑞貴 日本福祉大学 健康科学部

## 一般演題5 [治療・2]

9月23日(日) 10:35~11:35 第3会場(中ホール3)

座長: 平賀 勇貴(福岡リハビリテーション病院 リハビリテーション科)

後藤 響(長崎記念病院 リハビリテーション部)

**O5-1** 認知症を合併した大腿骨転子部骨折患者の痛みの経時的変化  
—痛みの自己報告評価と行動評価に着目した一症例—

若月 勇輝 和光会 川島病院 リハビリテーション部

**O5-2** 急性期における運動恐怖に対するミラーセラピーの実施経験

鳴尾 彰人 篤友会リハビリテーションクリニック

**O5-3** CRPS 患者に対する影絵を用いた臨床介入  
—neglect-like symptoms および身体醜形感を呈した一症例—

平川 善之 福岡リハビリテーション病院

**O5-4** 長期の不活動により膝痛が増悪した症例に対する運動療法, 神経筋電気刺激, 活動日記を併用したリハビリテーションの経験

徳永 嵩栄      社会医療法人長崎記念病院 リハビリテーション部

**O5-5** 頭痛教室の効果が異なった緊張型頭痛2症例の比較

新田 麻美      川口脳神経外科リハビリクリニック

**O5-6** 患者主体の運動療法が膝蓋骨骨折術後の遷延痛に奏効した症例  
一定量的感覚検査による中枢感作の経過評価

山口 修平      済衆館病院 リハビリテーション科

**O5-7** 運動療法と認知行動療法により歩行を獲得した慢性疼痛症例

黒飛 陽平      JA 静岡厚生連 遠州病院

# 一般演題セッション(ポスター発表) プログラム

## ポスター発表

9月22日(土) 13:45~14:45 9月23日(日) 11:40~12:40 第2会場(中ホール1・2)

座長: 鳥山 結加(医療法人瑞心会渡辺病院 リハビリテーション科) P-01~P-07

森本 孝一(高山赤十字病院 リハビリテーション科) P-08~P-14

島原 範芳(道後温泉病院 リハビリテーション科) P-15~P-21

永富 祐太(九州大学病院 リハビリテーション部) P-22~P-27

### P-01 患部以外の部位による自発運動がラット膝関節炎の痛みにおよぼす影響

童 穎

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 保健学専攻 理学療法学分野

### P-02 バーチャルリアリティを用いたイメージ想起による痛覚閾値の変化

林 和寛

愛知医科大学 学際的痛みセンター

### P-03 Neglect-like symptoms を呈した手指術後症例における 両手協調運動の低下に対する一考察

長倉 侑祐

医療法人孟仁会 摂南総合病院

### P-04 関節リウマチ患者の痛みと精神心理的問題の関係 —運動恐怖による比較検討—

中野 正規

道後温泉病院リウマチセンター リハビリテーション科

### P-05 労働者の重量物持ち上げ動作時の運動恐怖と運動学的因子の関連性 —三次元動作解析装置を用いて—

藤井 廉

畿央大学大学院健康科学研究科 神経リハビリテーション学研究室

### P-06 疼痛の日内律動性と内因性要因の関連 —疾患・疼痛病態の異なる3症例での検討—

田中 陽一

奈良県総合リハビリテーションセンター

### P-07 QST を用いた TKA 後膝痛における神経感作の検討

服部 貴文

前原整形外科リハビリテーションクリニック リハビリテーション部

### P-08 大腿骨近位部骨折患者の術後痛の残存に影響する因子の検討

後藤 響

長崎記念病院 リハビリテーション部

### P-09 痛みに対する心理社会的要因と理学療法依存性の関係について —pilot study—

森 聡

地域医療振興協会 飯塚市立病院

### P-10 多発外傷後に fear-avoidance model を呈した症例に対する認知行動療法を 導入したリハビリテーションの経験

本多 彩葉

社会医療法人 長崎記念病院 リハビリテーション部



- P-11** 入院集学的リハビリテーションで短期的効果が認められなかった1症例  
小泉 優喜 医療法人篤友会 千里山病院
- P-12** 全人工膝関節置換術後患者の灼熱痛に対して温冷覚の識別課題を実施した症例  
内藤 卓也 福岡リハビリテーション病院
- P-13** 認知的アプローチにより心理的要因の改善を認めたが疼痛強度が軽減しなかった症例  
楠元 史 社会福祉法人恩賜財団 済生会奈良病院 リハビリテーション部
- P-14** 股関節人工骨頭置換術後疼痛に対する電気刺激併用歩行練習の効果(症例報告)  
中原 寿志 医療法人 魁成会 宮永病院
- P-15** 包括的心理評価尺度 Yellow Flag Assessment Tool from the Optimal Screening for Prediction of Referral and Outcome の日本語版作成と信頼性の検証  
諸澄 孝宜 北千葉整形外科 リハビリテーション部
- P-16** 慢性腰痛患者における運動学的な姿勢評価システムの構築  
—自宅生活と外来での運動の乖離—  
西 祐樹 畿央大学大学院 健康科学研究科 神経リハビリテーション学研究室
- P-17** 関節リウマチ患者の訴える痛み  
—機能障害と疼痛強度, 精神心理的問題が自己効力感に及ぼす影響—  
上甲 雄太郎 特定医療法人千寿会 道後温泉病院
- P-18** 痛みに対する破局的思考が強い脊椎圧迫骨折患者への成功体験を強調した介入(症例報告)  
長谷川 隆史 医療法人和仁会 和仁会病院
- P-19** 線維筋痛症高齢女性2症例に対する3週間入院運動プログラムの試み:  
前頭前野の血流動態の変化と疼痛, 抑うつ, QOL の改善について  
藤田 信子 大阪行岡医療大学 医療学部 理学療法学科
- P-20** 線維筋痛症高齢女性2症例に対する3週間入院運動プログラムの試み:  
患者の心身の変化と理学療法士の関わり方に関する検討  
高井 範子 大阪行岡医療大学
- P-21** 運動恐怖, 破局的思考に着目し肩関節痛が寛解した1症例  
永見 達朗 医療法人 サカもみの木会 サカ緑井病院
- P-22** 理学療法士・作業療法士の痛み分野への関心と実態  
渡辺 優也 医療法人徳洲会 宇治徳洲会病院 リハビリテーション科
- P-23** 腰椎手術後早期の痛みと身体機能・精神的機能との関連についての検討  
阿部 純平 公立大学法人 福島県立医科大学附属病院 リハビリテーションセンター

**P-24** 当院セラピストの慢性腰痛症の調査とその対策

押切 知博 医療法人社団 協友会 横浜なみきリハビリテーション病院

**P-25** 慢性疼痛を呈した在宅高齢者に対する訪問リハビリテーションの効果の検討  
—3ヵ月間の介入による多面的評価の結果から—

田中 陽理 社会医療法人 長崎記念病院 リハビリテーション部

**P-26** 両肩関節周囲炎の症例に対する中枢神経の可塑的変化を踏まえた  
痛みの理学療法の経験

佐久間 俊輔 寺田痛みのクリニック

**P-27** 骨折後急性・亜急性期患者における内受容感覚の精度と認知・情動との  
関連性について

長倉 侑祐 医療法人孟仁会 摂南総合病院

日本ペインリハビリテーション学会

# 大会長講演

## ペインリハビリテーションの新たなステージ ー慢性疼痛の予防戦略ー

座長：坂野 裕洋（日本福祉大学 健康科学部）

講師：坂本 淳哉（長崎大学生命医科学域・保健学系  
長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科）

## 大会長講演

## ペインリハビリテーションの新たなステージ —慢性疼痛の予防戦略—

坂本 淳哉

長崎大学生命医科学域・保健学系  
長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 理学療法学分野

慢性疼痛に対する運動療法の臨床効果が無作為化比較試験で検証されてきた結果、慢性腰痛や変形性関節症をはじめとした慢性疼痛のマネジメントに関するガイドラインでは、運動療法は保存療法における中核的治療の一つに位置づけられている。しかし、本邦や欧米諸国における大規模疫学調査では、依然として慢性疼痛に苦しむ患者が多く、その中には医療機関で治療を受けているにもかかわらず十分な効果が得られていない事実も示されている。そのため、これからの慢性疼痛対策においては治療に加えて、いかにして慢性疼痛の発生・重症化・再発を予防できるかについても考えていく必要がある。

リハビリテーション医療の臨床で遭遇する慢性疼痛には、骨折後にみられる複合性局所疼痛症候群(CRPS)や術後の遷延性疼痛など組織損傷を発端として発生するケースがある。このような慢性疼痛は、末梢からの強い侵害刺激の inputs が持続し、中枢性感作が惹起されることが原因と考えられている。また、痛みが生じると運動を回避するようになるが、身体局所の不動や過度な安静は不活動性疼痛(immobilization-induced pain)を惹起し、慢性疼痛のリスクファクターになることが知られている。したがって、ペインリハビリテーションにおける慢性疼痛の予防戦略としては、生物医学的アプローチの一つである物理療法を適用することで、傷害部位の治癒を促し、痛みを早期に軽減するとともに、早期から運動介入を行なうことで身体活動性を向上させることが重要であるといえる。また、最近の知見を踏まえると、単に運動療法を行うだけではその効果は不十分であり、運動の目標を設定し、目標達成による成功体験を積み重ねることで運動アドヒアランスを高めていくことが重要になる。そして、このような運動療法を中核とした慢性疼痛の予防戦略は、プライマリ・ケアも含めたすべてのステージで実践していかななくては実効的な慢性疼痛対策にはなりえないと思われる。

本講演では、ペインリハビリテーションの新たなステージとしての慢性疼痛の予防戦略について考えてみたい。

---

**略 歴**

---

**【学 歴】**

- 2003年3月 長崎大学医療技術短期大学部理学療法学科 卒業  
2009年3月 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科医療科学専攻(博士課程) 修了

**【職 歴】**

- 2003年4月 長崎記念病院 リハビリテーション部  
2010年4月 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 理学療法学分野 助教  
2011年4月 長崎大学病院 リハビリテーション部  
2014年4月 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 理学療法学分野 准教授(現在に至る)

**【受賞歴】**

- 2014年 Journal of Physical Therapy Science 最優秀論文賞

**【学会・社会活動】**

- (一社)日本ペインリハビリテーション学会 理事  
(一社)日本運動器疼痛学会 代議員  
JPTF 日本基礎理学療法学会 理事・編集委員

**【著 書】**

- 2009年 「物理療法 第2版」 神陵文庫  
2010年 「機能障害科学入門」 神陵文庫  
2013年 「関節可動域制限 第2版 病態の理解と治療の考え方」 三輪書店

[illegible]

# 一般演題セッション

(口述発表)



## 01-1 非不動部である前肢の自発運動はラット後肢の不動性疼痛の発生を抑制する

○石川 空美子<sup>1)</sup>, 童 穎<sup>1)</sup>, 佐々木 遼<sup>2)3)</sup>,  
竹下 いづみ<sup>1)</sup>, 坂本 淳哉<sup>1)</sup>, 中野 治郎<sup>1)</sup>,  
沖田 実<sup>2)</sup>

- 1) 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 保健学専攻  
理学療法学分野
- 2) 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 医療科学専攻  
理学療法学分野
- 3) 社会福祉法人十善会 十善会病院 リハビリテーション科

【目的】四肢の一部あるいは全身の不動は、痛みを惹起するとされ、このような痛みは不動性疼痛と呼ばれている。不動性疼痛に対しては、運動療法によって不動状態を是正することが重要であることは言うまでもないが、最近の知見を参考にすると運動誘発性疼痛軽減効果(以下、EIH)も期待できる。また、EIHは有痛部以外の部位の運動でも認められ、しかも強制運動より自発運動の方が効果は大きいとされている。そこで本研究では、ラットの後肢をギプス固定することで惹起される不動性疼痛に対する非不動部である前肢の自発運動の効果を検討した。

【方法】8週齢のWistar系雄性ラット34匹を、  
①8週間後肢をギプスで固定する不動群(n=12)  
②8週間後肢をギプスで固定し、非不動部である前肢の自発運動を実施する運動群(n=12)  
③無処置の対照群(n=10)

に振り分け、実験期間中は電子式 von Frey 装置を用いて足底の機械的刺激に対する痛覚閾値を測定した。実験期間終了後は採取した脊髓組織をカルシトニン遺伝子関連ペプチド(CGRP)に対する蛍光免疫染色に供し、中枢性感作の状況を評価した。

【結果】結果、運動群の痛覚閾値は不動群と比較して3週目以降有意に高値を示した。また、脊髓後角深層におけるCGRPの発現は、不動群と比較して運動群は有意に低値であった。

【結語】以上の結果から、不動部位以外の自発運動によって、不動性疼痛の発生を抑制できることが示唆された。

キーワード：不活動性疼痛, 自発運動, EIH

## 01-2 ラット変形性股関節症モデルにおける関連痛の発生機序に関する検討

○竹下 いづみ<sup>1)</sup>, 坂本 淳哉<sup>1)</sup>, 濱平 真由<sup>2)</sup>,  
佐々木 遼<sup>1)3)</sup>, 石川 空美子<sup>1)</sup>, 沖田 実<sup>1)</sup>

- 1) 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科  
運動障害リハビリテーション学研究室
- 2) 公益社団法人福岡医療団 千鳥橋病院  
リハビリテーション技術部
- 3) 社会福祉法人十善会 十善会病院 リハビリテーション部

【目的】変形性股関節症(Hip OA)をはじめとした股関節疾患では、膝関節周囲に関連痛が認められることが多く、これはリハビリテーションの阻害因子になることが知られている。その発生機序については、股関節の炎症を起源とし、二分軸索感覚ニューロンの末梢側軸索を介した軸索反射によって膝関節にカルシトニン遺伝子関連ペプチド(CGRP)が放出されることが関与すると仮説されているが、詳細は不明である。そこで本研究では、Hip OA モデルラットを用いて前述の仮説について検討した。

【方法】実験動物にはWistar系雄性ラット35匹を用い、股関節腔内にモノヨード酢酸(MIA)を投与しOAを惹起するHip OA群と生理食塩水を投与するsham群に振り分け、膝関節の圧痛閾値を経時的に評価した。また、一部のラットに対してはMIA投与後2週目において膝関節腔内にCGRP受容体拮抗薬を投与し、その後の膝関節の圧痛閾値の変化を評価した。

【結果】MIA投与後2週目以降、Hip OA群の膝関節の圧痛閾値はSham群と比較して有意に低下した。また、膝関節腔内にCGRP受容体拮抗薬を投与すると、投与2時間後にHip OA群の膝関節の圧痛閾値が有意に改善した。

【結語】以上の結果より、股関節にOAが惹起されることで膝関節に関連痛が発生し、その発生機序の一端には股関節と膝関節を支配する二分軸索感覚ニューロンを介した軸索反射によって膝関節にCGRPが放出されることが関与している可能性が示唆された。

キーワード：関連痛, 二分軸索感覚ニューロン,  
カルシトニン遺伝子関連ペプチド

## 共催企業一覧(順不同)

アルケア株式会社

塩野義製薬株式会社／日本イーライリリー株式会社

株式会社シラックジャパン

株式会社ユニークメディカル

株式会社クレアクト

あゆみ製薬株式会社

株式会社協同医書出版社

株式会社三輪書店

真興交易株式会社

株式会社医学書院

インターリハ株式会社

株式会社ミユキ技研

株式会社ニッショウ

株式会社テクノ・スズタ

福岡リハビリテーション病院

社会医療法人長崎記念病院

医療法人利靖会

株式会社九州神陵文庫

株式会社安中集栄堂

# 一般社団法人 日本ペインリハビリテーション学会 定 款

## 第1章 総 則

### (名 称)

第1条 当法人は、一般社団法人日本ペインリハビリテーション学会と称する。

### (主たる事務所)

第2条 当法人は、主たる事務所を愛知県半田市東生見町におく。

### (目 的)

第3条 当法人は、痛みのリハビリテーションや研究に携わる多領域の医療従事者および研究者が集まり、痛みとそのリハビリテーションをより科学的な面から追求し、その活動を通じて国民にとって有益な医療の発展を目指す。また、その成果を社会に広く啓発すると同時にそのリハビリテーションを担う人材を育成し、国内外の本分野の医療・研究の指導的な役割を果たすことを目指す。

### (事 業)

第4条 前条の目的を達するため次の事業を行う。

- 【1】機関誌やその他の刊行物の発行、及び広報
- 【2】学術大会、講演会、講習会、展示会などの開催
- 【3】国際的な関係諸学会との協力活動
- 【4】国内の関係諸学会との協力活動
- 【5】認定制度の作成および推進
- 【6】適切な診療報酬改定に向けて必要な活動
- 【7】優秀な研究(投稿論文・学術発表)の奨励ならびに表彰
- 【8】痛みのリハビリテーションに関わる人材育成
- 【9】その他当法人の目的を達成するため必要な事業

### (公告の方法)

第5条 当法人の公告は、主たる事務所の掲示場に掲示する方法により行う。

## 第2章 会 員

### (種 別)

第6条 当法人の会員は、次の【1】から【5】のいずれかに該当する者で、【1】【2】及び【5】については、所定の手続きを完了した者とする。

- 【1】正 会 員：当法人の目的に賛同する個人で、所定の入会手続きをとった者
- 【2】学生会員：学生の立場にあり、当法人の目的に賛同し、所定の入会手続きをとった者
- 【3】顧 問：当法人を指導する立場にある者
- 【4】功労会員：当法人のために特に功労のあった者
- 【5】賛助会員：当法人の目的に賛同し、事業を賛助するため、会費年額1口以上を納める者

### (入 会)

第7条 当法人の正会員、学生会員および賛助会員の入会について、次の資格を設ける。

- 【1】正会員の資格はイ) 医・歯・薬・保健学など、これと関連のある教育課程を修了した者。  
ロ) それ以外の者については、理事会においてイ) と同等と認めた者とする。  
なお、入会については、入会年度の年会費を事務局に納入した者とする。
- 【2】学生会員の資格は、学生または大学院生の立場にあり、その証明書を当法人事務局に提出した者とする。
- 【3】賛助会員の入会の資格は、理事会の承認が得られた者とする。
- 【4】当法人の正会員の資格喪失したものが再入会する場合には、理事会の承認が必要である。

### (会 費)

第8条 会員は別に定める会費を納入しなければならない。

### (会員の休止)

第9条 留学や出産・育児など、やむを得ない事情により会員活動が継続できなくなった場合、会員活動休止の旨を当法人の事務局まで届け出なければならない。休止届の受理により、休止期間中の年会費を免除することができる。ただし、既納の会費は返付しない。

### (資格喪失)

第10条 会員で自らの意思により退会しようとする者は、その旨を当法人の事務局まで届け出なければならない。退会届の受理により、会員資格は喪失する。ただし、既納の会費は返付しない。

2 会員が次の各号の1つ以上の項目に該当するときは、会員資格は喪失となる。

- 【1】会員で会費を3年以上滞納し、かつその催促に応じないとき
- 【2】会員が死亡したとき、または会員である団体が解散したとき
- 【3】除名されたとき

### (除 名)

第11条 会員が次の各号の1つ以上の項目に該当するときは、社員総会の決議を経て除名することができる。

- 【1】当法人の名誉を傷つけ、または当法人の目的に違反する行為があったとき
- 【2】当法人の定款またはその他の規則に違反したとき
- 【3】前2号のほか除名すべき正当な事由があるとき

## 第3章 社 員

### (社 員)

第12条 当法人の代議員を一般社団及び一般財団法人に関する法律(以下「一般法人法」という)上の社員(以下、単に「社員」という)とする。

- 2 社員は、当法人の正会員でなければならない。当法人の成立時の社員は、法人設立時の代議員とする。
- 3 代議員は、2年以上の正会員を経た者の中から別に定める選出規定により選出する。

## (社員の資格喪失)

第13条 社員の任期は4年とする。ただし、第10条に掲げる会員の資格喪失に該当するものは、任期中であっても社員の資格を喪失する。

- 2 特別の理由もなく、2年連続当法人の社員総会に欠席した者は、当然に社員の資格を喪失する。なお、第23条の規定により他の社員を代理人として社員総会の議決権を行使する場合、議決権の行使は可能であるが、社員総会への出席には該当しない。

## 第4章 役員

## (種別および定数)

第14条 当法人に、次の役員をおく。

- 【1】理 事 3名以上30名以内
- 【2】監 事 1名以上2名以内
- 【3】理事長 1名
- 【4】副理事長 1名以上2名以内
- 【5】常務理事 1名以上5名以内

## (理事・職務)

第15条 理事は理事会を構成し、当法人の会務を分担する。

- 2 理事は社員総会において社員の中から選任する。
- 3 理事長、副理事長、常務理事をもって、一般法人法第91条第1項2号の業務執行理事とする。
- 4 理事長、その他の業務執行理事は、理事会において選任及び解任する。
- 5 理事長は、事務を統括する当法人の代表とする。
- 6 副理事長は、理事長を補佐し、理事長に事故があったときはそれに代わってその職務を行う。常務理事は理事長を補佐し定められた事務を分掌処理し、日常業務の執行にあたる。
- 7 理事及び監事は、相互に兼ねることはできない。
- 8 理事について、当該理事及びその配偶者または三親等内の親族(これらの者に準ずるものとして当該理事と特別の関係があるとして政令で定める場合を含む)である理事の合計数が理事の総数の3分の1を超えてはならない。監事についても同様とする。

## (監 事)

第16条 監事は当法人の理事の職務の執行を監査し、これを社員総会にて報告する。

- 2 監事は社員総会において社員の中より選任する。

## (任 期)

第17条 理事の任期は、選任後2年内の最終の事業年度に関する定時社員総会の終結の時までとし、任期満了前に退任した理事の補欠として、または増員により選任された理事の任期は、前任者または他の在任理事の任期の残存期間と同一とする。

- 2 監事の任期は、選任後4年内の最終の事業年度に関する定時社員総会の終結の時までとし、任期満了前に退任した監事の補欠として選任された監事の任期は、前任者の任期の残存期間とする。

- 3 任期満了後であっても後任者の就任があるまでは、その職務を行わなければならない。
- 4 理事と監事については、原則として、任期中の欠員補充を行わないものとする。

(報酬)

第18条 理事および監事における役員報酬は無報酬とする。

- 2 役員には、その職務執行を行うために要する費用を支払うことができる。

(事務局員)

第19条 理事長は有給または無給の事務局職員を若干名任命し、置くことができる。なお、事務局職員の任期は雇用開始日からその年度末まで最大1年間とし、契約により更新することができるものとする。

## 第5章 社員総会

(社員総会)

第20条 当法人の一般法人法上の社員総会は社員をもって構成する。

(種類および招集)

- 第21条 定時社員総会は年1回、毎事業年度終了後3か月以内に理事長が招集する。臨時社員総会は理事長が必要と認めた場合のほか、法令の定めに従って理事長が招集する。
- 2 招集はその開催の少なくとも10日以前に議題を示し、書面または会報または機関誌または電子メールにより、社員総会を構成すべき全員に通知しなければならない。
  - 3 社員総会の議長は、理事長とする。ただし理事長に事故があるときは、あらかじめ理事会において定めた順序に従い、他の理事がこれに代わる。

(社員総会の権限)

第22条 社員総会は、法令およびこの定款で定めるもののほか、当法人の運営に関する重要な事項を決議する。

(議決)

- 第23条 社員は、1人1個の議決権を有する。その決議は次項に定める場合を除き、代理行使を含めて全社員の議決権の過半数を有する社員が出席し、出席した社員の議決権の過半数をもって行う。
- 2 前項の規定にかかわらず、法第49条第2項各号に列挙された事項に関する社員総会の決議は、全社員の議決権の過半数を有する社員が出席し、かつ、全社員の議決権の3分の2以上に当たる多数をもって行う。
  - 3 理事及び監事を選任する議案を決議するに際しては、候補者ごとに第1項の決議を行わなければならない。理事または監事の候補者の合計数が第12条に定める員数を上回る場合には、過半数の賛成を得た候補者の中から得票数の多い順に員数の枠に達するまでの者を選任することとする。

(議決権の代理行使、委任状)

- 第24条 社員総会に出席できない社員は、他の社員を代理人とする旨の委任状を書面にて提示したうえで、代理人を通じて議決権を行使することができる。ただし代理権の授与は、社員総会ごとにしなければならない。

(決議等の省略)

- 第25条 社員総会の議題につき社員の全員が、書面または電子メール等の個人を証明しうる媒体をもって同意の意思表示したときは、議題は可決したものとみなす。報告案件につきまた同様とする。

(議事録)

- 第26条 社員総会の議事については、議事録を作成し、これに議事の経過の要領およびその結果を記載し、議長およびその会議において選任された議事録署名人2人以上が、署名押印しなければならない。またこれを10年間主たる事務所に保存するものとする。

## 第6章 理事会

(理事会の設置)

- 第27条 当法人は、理事会をおく。

(招 集)

- 第28条 理事会は、理事長が招集する。
- 2 招集は理事会の日の一週間前までに、通知しなければならない。ただし、理事および監事の全員の同意があるときは、招集の手続きを経ることなく理事会を開催することができる。

(権 限)

- 第29条 理事会は、次の職務を行う。

- 【1】当法人の業務執行の決定
- 【2】理事の職務の執行の監督
- 【3】理事長の選任及び解職
- 【4】副理事長、常務理事の選任及び解職

(議 決)

- 第30条 理事会の決議は、理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。
- 2 理事が、決議の目的である事項について提案した場合において、議題につき理事の全員が、書面または電子メール等の個人を証明しうる媒体をもって同意の意思表示したときは、その提案を可決する旨の理事会の議決があったものとみなす。

(議事録)

- 第31条 理事会の議事においては、議事録を作成し、理事長および監事がこれに署名または記名押印する。

## 第7章 委員会

### (専門委員会)

- 第32条 当法人の目的および事業を達成するため、必要に応じて専門委員会を設置することができる。専門委員会は必要に応じて研究集会を開催することができる。
- 2 専門委員会の設置ならびに委員の人選は、理事あるいは社員の発議により社員総会で選任される。
  - 3 専門委員会の審議経過の要約、結論および会計は社員総会において報告されなければならない。

## 第8章 学術大会

### (学術集会)

- 第33条 当法人は年1回学術大会を開催するほか、必要に応じ、講演会、講習会、展示会を開催する。
- 2 学術大会の会長は、理事会で提案され、社員総会で選出される。
  - 3 会長は当該学術大会の運営に関する諮問機関として運営委員会を必要に応じて設置することができる。

## 第9章 資産及び会計

### (資産の構成)

- 第34条 当法人の資産は、次の財産をもって構成する。

- 【1】入会金及び会費
- 【2】寄付金品
- 【3】資産から生じる収入
- 【4】事業に伴う収入
- 【5】その他の収入

### (資産の管理)

- 第35条 当法人の資産は、理事長が管理し、その方法は、社員総会の議決を経て、理事長が別に定める。

### (経 費)

- 第36条 当法人の経費は、資産をもって支弁する。

### (事業計画及び収支予算)

- 第37条 当法人の事業計画及び収支予算については、毎事業年度開始前に理事長が作成し、理事会及び社員総会の承認を受けなければならない。

### (事業報告及び決算)

- 第38条 当法人の事業報告及び決算については、毎事業年度終了後、理事長が作成し、監事の監査を経て、社員総会の承認を受けなければならない。



(事業年度)

第39条 当法人の会計年度は毎年8月1日に始まり、翌年の7月31日に終るものとする。

## 第10章 基 金

(基金の拠出)

第40条 当法人は社員または第三者に対して法第131条に規定する基金の拠出を求めることができるものとする。

(基金の取り扱い)

第41条 基金を募集するには、その都度募集事項を定めて、基金の申し込み・割当をしなければならない。基金の募集・割り当て・払込み等の手続き、基金の管理等の取り扱いについては、理事会の決議により定める基金取扱規程による。

2 基金の返還は、定時社員総会の決議に基づくことを要し、基金の返還等の取り扱いについては、理事会の決議により定める基金取扱規程による。

(基金の拠出者の権利)

第42条 基金は当法人が解散するまで拠出者に返還しないものとする。それ以外の事由により基金を返還しようとするときは、定時社員総会の決議によって、返還する基金の総額を定め、時期、方法等は理事会が決定したところに従って行わなければならない。

(代替基金の積立)

第43条 基金の返還を行うため、返還される基金に相当する金額を代替基金として積み立てるものとし、代替基金は取り崩しをすることができないものとする。

## 第11章 定款の変更、解散等

(定款の変更)

第44条 この定款は、社員総会において、総社員の半数以上であって、総社員の議決権の3分の2以上の議決により変更することができる。

(解 散)

第45条 当法人は、社員総会において、総社員の半数以上であって、総社員の議決権の3分の2以上の議決により変更することができる。

(残余財産の処分)

第46条 当法人が解散等により清算するときに有する残余財産は、当法人と類似の事業を目的とする他の公益法人、特定非営利活動法人または国もしくは地方公共団体に寄付するものとする。

一般社団法人 日本ペインリハビリテーション学会  
役員・委員会委員名簿(順不同, 敬称略)

■顧問

|                            |                                      |
|----------------------------|--------------------------------------|
| 井関 雅子 (順天堂大学)              | 伊達 久 (仙台ペインクリニック)                    |
| 牛田 享宏 (愛知医科大学)             | 西原 真理 (愛知医科大学)                       |
| 北原 雅樹 (横浜市立大学附属市民総合医療センター) | 細井 昌子 (九州大学病院)                       |
| 柴田 政彦 (奈良学園大学)             | 三木 健司 (大阪行岡医療大学, 早石病院 整形外科・疼痛医療センター) |
| 鈴木 重行 (名古屋大学)              | 矢吹 省司 (福島県立医科大学)                     |
| 仙波恵美子 (大阪行岡医療大学)           |                                      |

■理事長

松原 貴子 (神戸学院大学)

■副理事長

|             |             |
|-------------|-------------|
| 沖田 実 (長崎大学) | 森岡 周 (畿央大学) |
|-------------|-------------|

■理事

|                 |                       |
|-----------------|-----------------------|
| 坂本 淳哉 (長崎大学)    | 信迫 悟志 (畿央大学)          |
| 城 由起子 (名古屋学院大学) | 坂野 裕洋 (日本福祉大学)        |
| 西上 智彦 (甲南女子大学)  | 平川 善之 (福岡リハビリテーション病院) |

■監事

|                 |              |
|-----------------|--------------|
| 肥田 朋子 (名古屋学院大学) | 中野 治郎 (長崎大学) |
|-----------------|--------------|

■代議員

|                     |                          |
|---------------------|--------------------------|
| 今井 亮太 (河内総合病院)      | 佐藤 剛介 (奈良県リハビリテーションセンター) |
| 江草 典政 (島根大学医学部附属病院) | 下 和弘 (愛知医科大学)            |
| 大住 倫弘 (畿央大学)        | 濱上 陽平 (新潟医療福祉大学)         |
| 片岡 英樹 (長崎記念病院)      | 壬生 彰 (甲南女子大学)            |
| 片山 脩 (渡辺病院)         |                          |

■暫定代議員

|                |              |
|----------------|--------------|
| 井上 雅之 (愛知医科大学) | 平瀬 達哉 (長崎大学) |
| 瓜谷 大輔 (畿央大学)   |              |

## ■事務局

局長

坂野 裕洋 (日本福祉大学)

城 由起子 (名古屋学院大学)

井上 雅之 (愛知医科大学)

## ■編集委員会

委員長

片岡 英樹 (長崎記念病院)

壬生 彰 (甲南女子大学)

今井 亮太 (河内総合病院)

坂野 裕洋 (日本福祉大学)

信迫 悟志 (畿央大学)

## ■倫理委員会

委員長

西上 智彦 (甲南女子大学)

濱上 陽平 (新潟医療福祉大学)

## ■COI委員会

委員長

中野 治郎 (長崎大学)

## ■痛み専門医療者委員会

委員長

城 由起子 (名古屋学院大学)

井上 雅之 (愛知医科大学)

下 和弘 (愛知医科大学)

片山 脩 (渡辺病院)

## ■研究委員会

委員長

森岡 周 (畿央大学)

西上 智彦 (甲南女子大学)

大住 倫弘 (畿央大学)

平瀬 達哉 (長崎大学)

## ■教育委員会

委員長

沖田 実 (長崎大学)

平川 善之 (福岡リハビリテーション病院)

坂本 淳哉 (長崎大学)

井上 雅之 (愛知医科大学)

佐藤 剛介 (奈良県リハビリテーションセンター)

## ■広報委員会委員長

坂野 裕洋 (日本福祉大学)

## PAIN REHABILITATION

### (一般社団法人日本ペインリハビリテーション学会誌) 投稿規程

(平成30年4月1日)

#### 1. 本研究会誌の目的

本誌は一般社団法人日本ペインリハビリテーション学会の学会誌として、痛みに関する情報の共有化の場、さらに基礎研究、臨床研究及び症例報告の場を提供し、痛みに対するリハビリテーションの発展に寄与することを目的とする。

#### 2. 掲載内容

内容は学術集会での発表抄録、研究論文、症例報告、総説論文、トピックス、コラムなど、痛みに関連した論文などを掲載する。

#### 3. 投稿論文の条件

「一般社団法人日本ペインリハビリテーション学会利益相反の取扱いに関する規定」に則り、投稿時に投稿論文と共に利益相反事項届出書を添付しなければならない(詳細は学会ホームページを参照すること)。また、論文には利益相反に関する報告事項を記載する必要がある。これら条件を満たしていない原稿は、掲載を検討せず、投稿者に返却される。さらに投稿論文は他誌に発表、または投稿中ではないものでなくてはならない。

#### 4. 投稿方法

投稿論文の原稿は Microsoft Word、図表は Microsoft PowerPoint として、電子メール(下記学会学術局の Email アドレス)に添付して送付すること。

#### 5. 投稿論文の採択

投稿論文の採否は編集委員会で決定します。審査の結果、不採択の論文はすみやかに返送されます。審査の結果、原稿の一部の改正を求めるか、編集委員会の責任において、語句を修正することがあります。

#### 6. 記事の種類と原稿の規定分量

研究論文: 本文・文献400字詰め原稿用紙20枚(8,000字)以内、図表5枚以内  
症例報告: 本文・文献400字詰め原稿用紙15枚(6,000字)以内、図表5枚以内  
総説: 本文・文献400字詰め原稿用紙20枚(8,000字)以内、図表5枚以内  
トピックス: 本文・文献400字詰め原稿用紙10枚(4,000字)以内、図表5枚以内  
コラム: 本文・文献400字詰め原稿用紙10枚(4,000字)以内、図表5枚以内

#### 7. 執筆要領

- ①表紙には和英併記にて、表題、筆署名、所属を付記し、和文にて800字程度の要旨(研究論文、症例報告、総説)、キーワード(5個以内)及び連絡先(住所、TEL)を必ず書いてください。
- ②原稿は左横書、専門用語以外は常用漢字、現代仮名づかい(平かな)を用い、楷書体で平易明瞭に、句読点は「、」及び「。」を用いてください。

③数字は算用数字を用いて、度量衡単位はCGS単位で、m, cm, dl, kg, g, min, secなどを用いてください。

④外国人名には原語を用い、外国地名はカタカナ書きにしてください。

⑤文献の記載方法

引用文献は本文の引用順に並べてください。雑誌の場合は著者氏名、論文題目、雑誌名、西暦年号、巻、頁(最初-最終)の順に書き、単行本の場合は著者氏名、書名、編集者名、発行所名、発行地、西暦年号、頁を記載してください。文献の省略は公の省略法(Index Medicusなど)に従ってください。引用文献の著者氏名が3名以上の場合は最初の2名を記載してください。

[例]

- 1) 宮本謙三, 竹林秀晃, 他: 加齢による敏捷性機能の変化過程— Ten Step Test を用いて—, 理学療法学, 2008; 35: 35-41.
- 2) Tompkins J, Bosch PR, et al.: Changes in Functional Walking Distance and Health-Related Quality of Life After Gastric Bypass Surgery. Phys Ther. 2008; 88: 928-935.
- 3) 信原克哉: 肩—その機能と臨床— (第3版), 医学書院, 東京, 2001, pp156-168.
- 4) Kocher MS: Evaluation of the medical literature. Chap 4. In: Morrissy RT and Weinstein SL (eds): Lovell and Winter's Pediatric Orthopaedics. 6th ed, Lippincott Williams & Wilkins, Philadelphia, 2006, pp97-112.
- 5) 名郷直樹: EBMの現状と課題, エビデンスに基づく理学療法 活用と臨床思考過程の実際, 内山 靖(編), 医歯薬出版, 東京, 2008, pp18-38.
- 6) <http://www.who.int/classifications/icf/site/icftemplate.cfm> (参照 2007-05-19)

## 8. 筆者校正

筆者校正は1回のみ行います。校正は赤で行ってください。

## 9. 著作権

本誌に掲載された論文の著作権は一般社団法人 日本ペインリハビリテーション学会に帰属します。

## 10. 別刷

30部を無料贈呈します。

## 11. 一般社団法人 日本ペインリハビリテーション学会 編集委員会

〒851-0301 長崎県長崎市深堀町1-11-54

社会医療法人 長崎記念病院リハビリテーション部

片岡 英樹

E-mail: kataoka-hide@kii.bbiq.jp

編集委員 片岡 英樹, 壬生 彰, 今井 亮太, 坂野 裕洋, 信迫 悟志

## 編集後記

今回、「Pain Rehabilitation」第8巻2号をお届けいたします。この第8巻2号は、第23回日本ペインリハビリテーション学会学術大会プログラム・抄録集となっています。

本学術大会では、テーマに「新たなステージへの挑戦 ―慢性疼痛の予防戦略―」を掲げ、大会長講演、特別講演、特別企画、シンポジウム、教育講演、ランチョンセミナーが企画されております。一般演題も、61演題ものの口述・ポスター発表が予定されており、口述発表会場を2会場設けるなど、新たな取り組みもされております。

近年の痛み医療の発展の一方で、本邦ではまだまだ若年者から高齢者まで幅広い年代の国民が慢性疼痛に悩まされている現実があります。本学術大会が「慢性疼痛の発生予防」のための治療戦略の確立に向けた研究・教育の発展や社会システムの構築・整備について整理し理解する良い機会となるよう、参加される皆様の熱いディスカッションを期待しております。

(片岡 英樹)

## Pain Rehabilitation 第8巻2号

平成30年(2018年)8月24日 発行

編集・発行：一般社団法人 日本ペインリハビリテーション学会

事務局：日本福祉大学健康科学部 リハビリテーション学科  
理学療法学専攻内  
〒470-0012 愛知県半田市東生見町26-2  
TEL：0569-20-0118(内線2527)  
E-mail：JAPR@ml.n-fukushi.ac.jp

出版：株式会社セカンド  
〒862-0950 熊本市中央区水前寺4-39-11 ヤマウチビル1F  
TEL：096-382-7793 FAX：096-386-2025  
<https://secand.jp/>

